

氷見市人口ビジョンのポイント

～氷見市の中学卒業生450人の物語～



皆さんにとって、 「豊かな暮らし」「幸せな人生」とは、どのようなものでしょうか？

安全でおいしいご飯、安心して暮らせる家、子どもの願いが実現できる環境、お年寄りが健康で元気に暮らせる社会、人生を豊かにする仕事、地域の人たちとの心地よいつながり、いざという時に助け合える仲間、収穫の喜びの分かち合い、

世代を越えて、ご先祖様の思いともつなげる伝統行事…考えてみれば、幸せは一人で実現できることだけではなく、様々な「人々のふれあいや助け合い」があるからこそ成り立つことが多いものです。

しかし今、その「人々」=人口が減っています。

このまま減り続ければ、 2060年には、氷見市の人口は今の半分以下となります。

想像してみてください。

もしもご近所の半分が空家になり、スーパーで買い物する人が半分になり、子どもたちの教室の半分が空席になったとしたら…

これからはじまる物語は、氷見市の中学卒業生 450人の人生を通して、氷見市の人口推移について語るものです。

この事実と向き合った後、あなたは何を感じるでしょうか。

そんな未来に対して、

あなたは今、何ができますか。

この物語が、これからの未来について考える、話し合うきっかけとなれば幸いです。

さて、遠くから中学生たちの卒業式の歌が聞こえてきました。そろそろ物語をはじめることになりました。

15 歳

氷見市の中学生 **450人** が、
卒業しました。

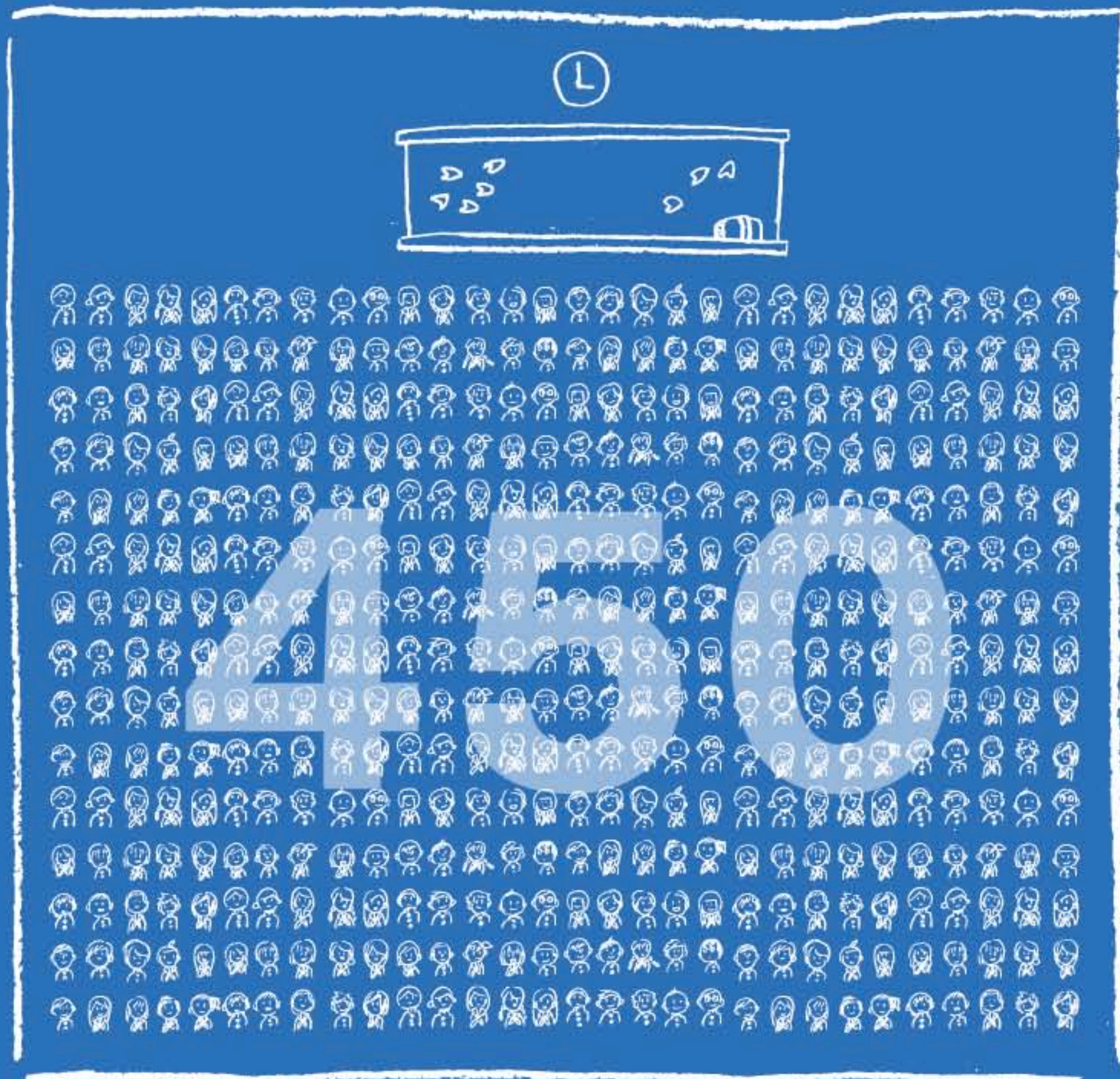
校門の前で卒業証書をもった二人が
力いっぱい握手をしました。
「またいつか、必ず会おうな」。



450



氷見在住 450名



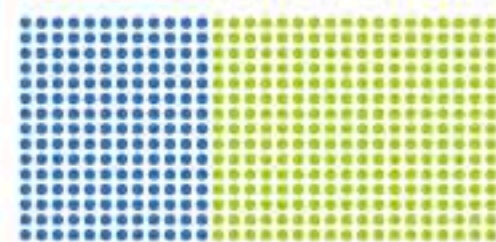
15 歳

450人のうち**180人**は、
氷見に住みながら氷見高校へ。

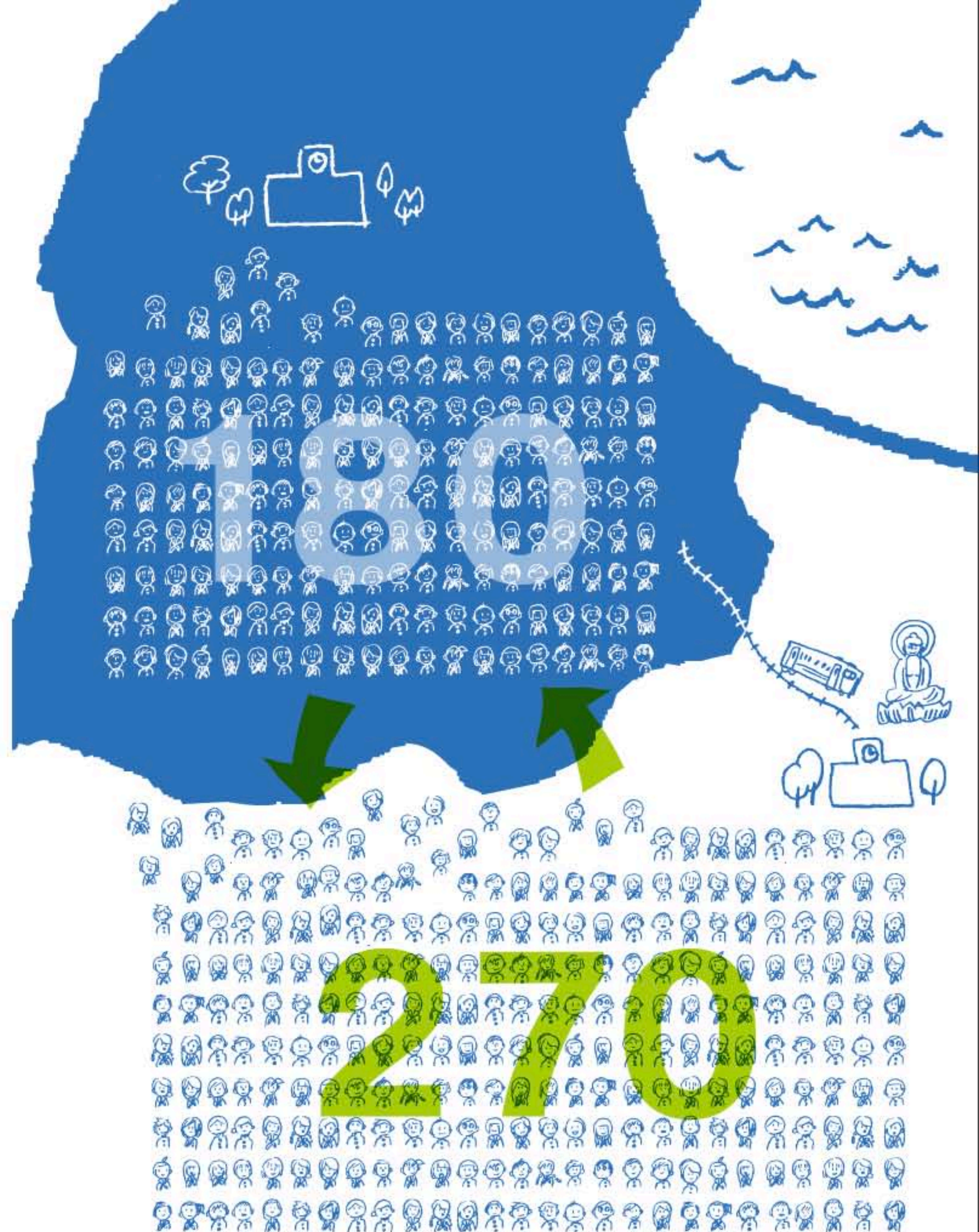
のこり**270人**は、
氷見に住みながら
市外の高校などへ進学しました。



450



氷見在住 450名



18 歳ごろ

高校を卒業すると、

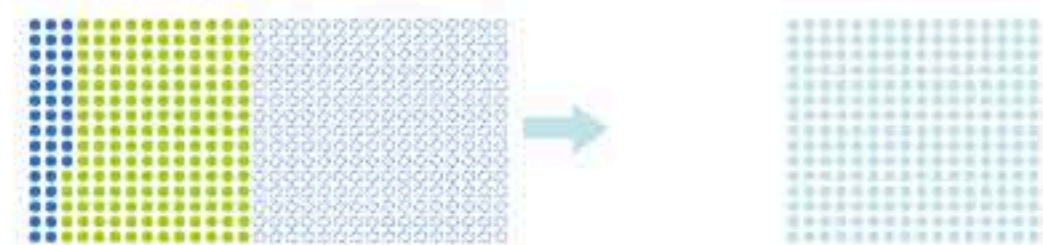
40人は氷見に住みながら氷見で就職し、

170人は氷見に住みながら市外の大学などへ、

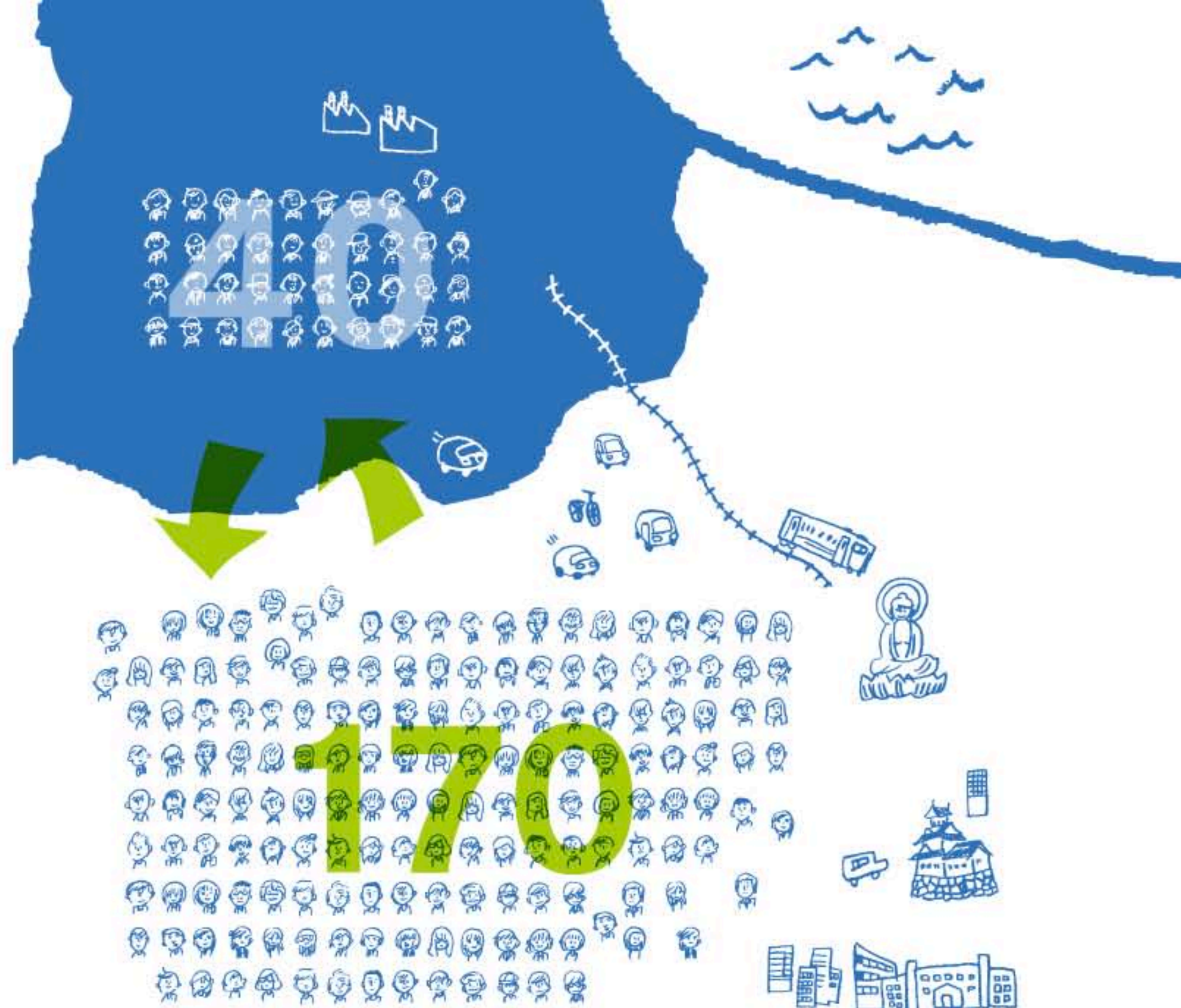
240人は氷見を出て市外に住み、
大学などへ通うことになりました。



210

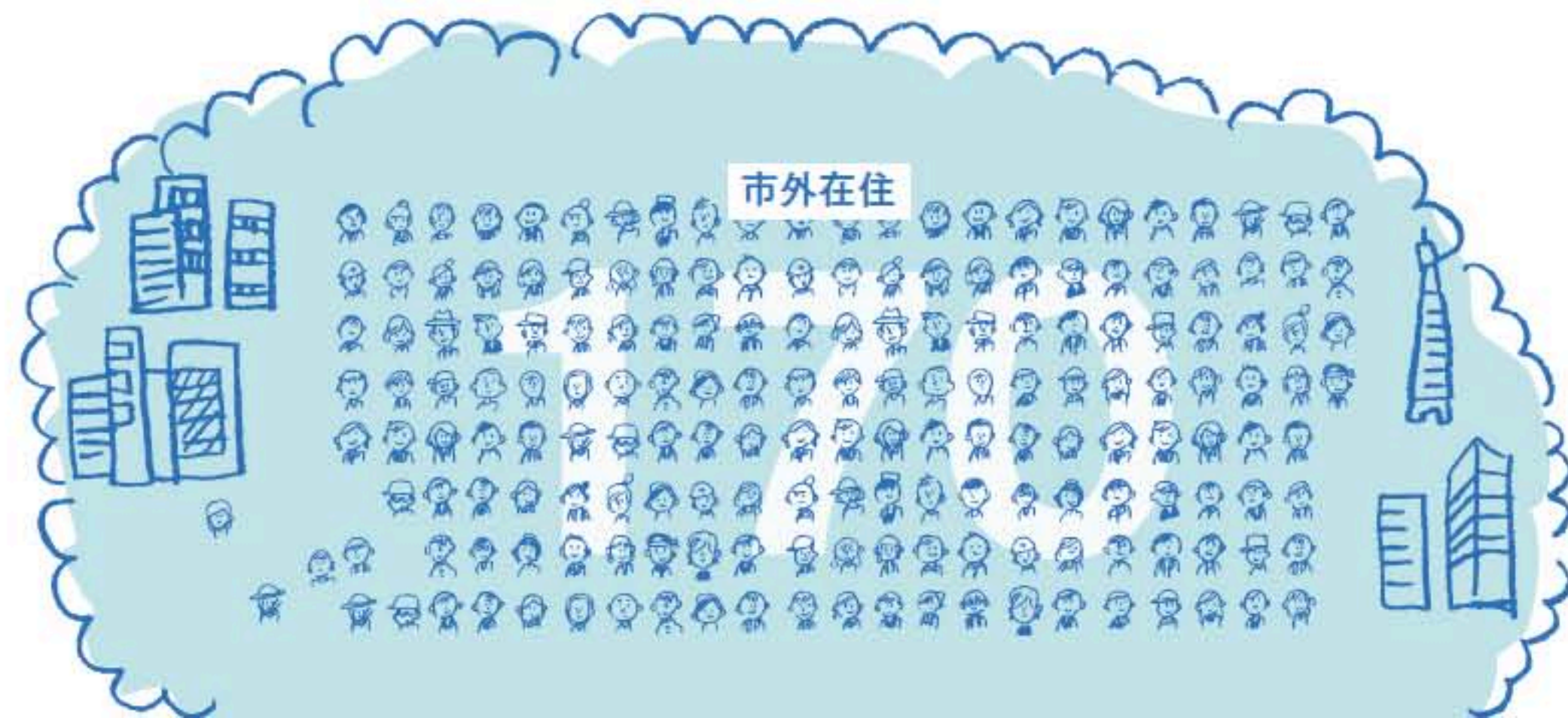
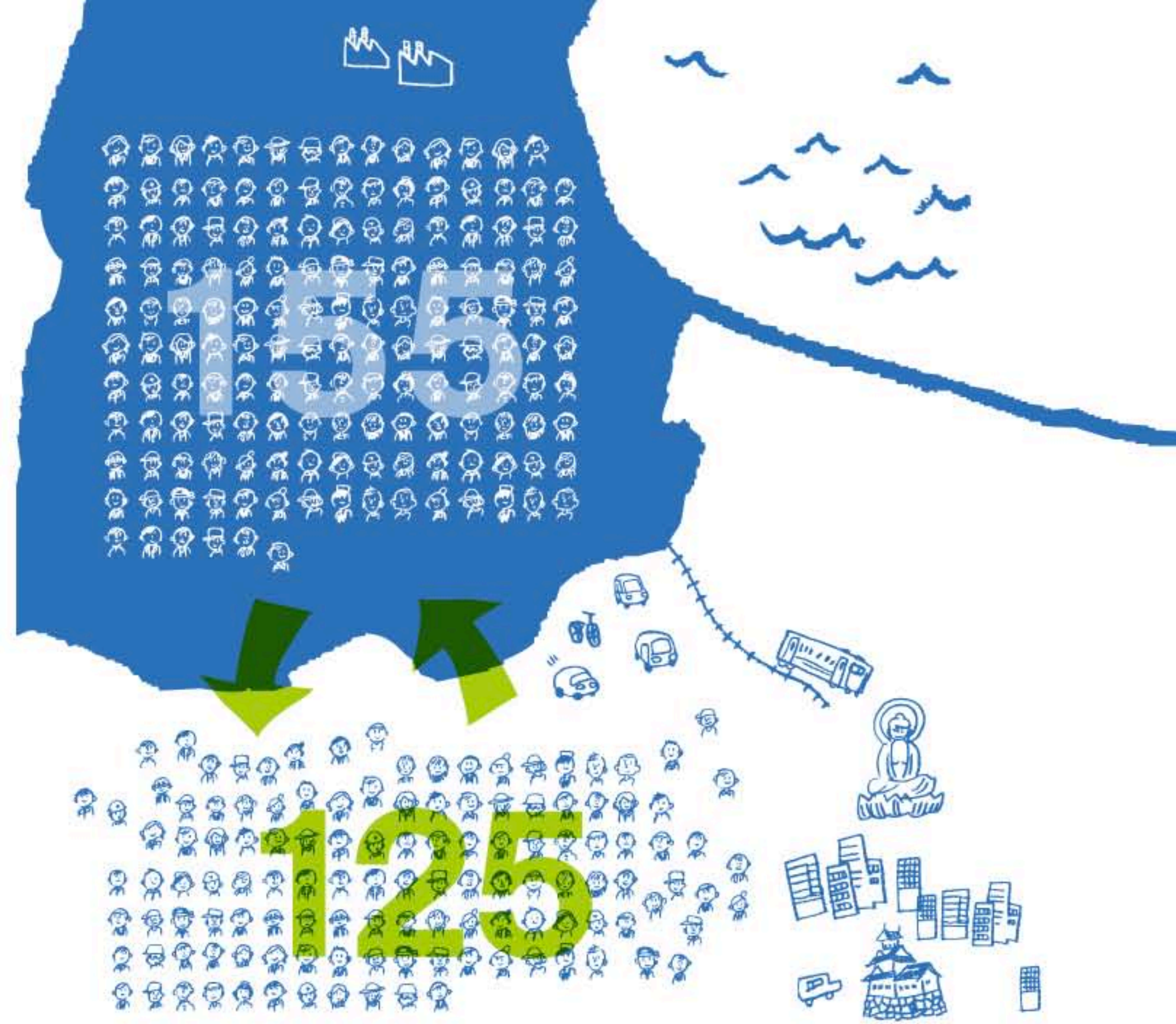
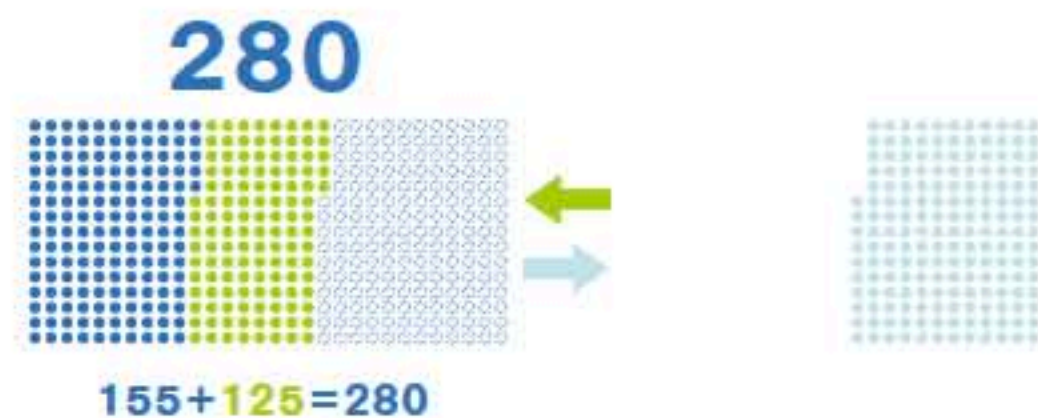
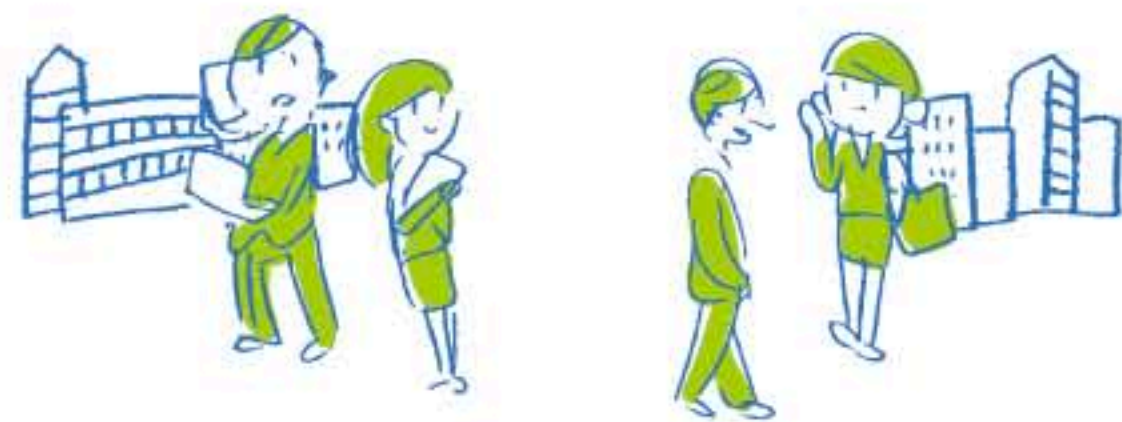


$$40 + 170 = 210$$



22 歳ごろ

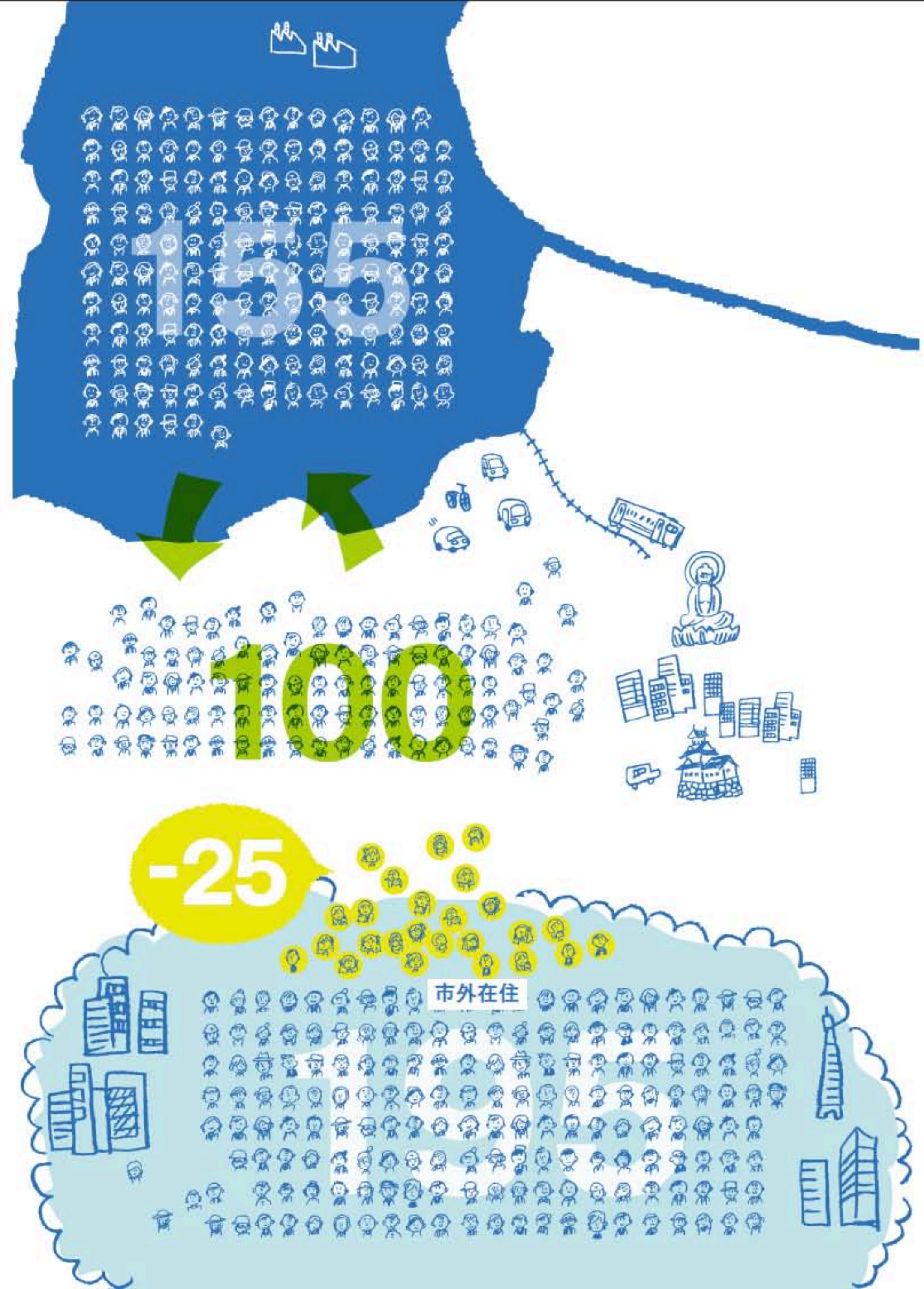
大学を卒業すると、
155人は氷見に住みながら氷見で働き、
125人は氷見に住みながら
 市外で就職などをしました。
 もともと450人いた中学生も、
 氷見に残ったのは280人。
170人はそのまま市外で就職などをし、
 氷見にはもどらなかったのです。



30
歳ごろ

氷見に残った280人の中には
結婚・子育てを機に、職場の近くに
引っ越したいと思う人たちが出てきました。

結果として、さらに**25人**が
氷見から出て行ってしまいました。





40
歳ごろ



40歳を過ぎると、

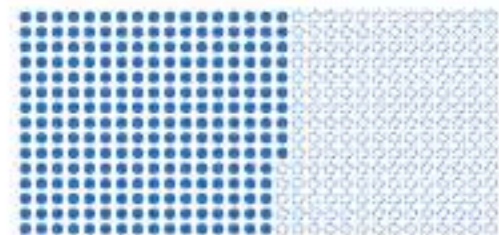
みんなそれぞれの仕事や家庭をもって、
落ち着いてきたのでしょうか。
人の移動は少なくなりました。

卒業生の一人は、学校の前を通りかかると、
「今ごろ、同級生たちはどうしているのかな」
と、ふと思いました。

一年。また一年。時は静かに流れていきます。



255



氷見市在住

255





450 人いた中学生たちも、
75 歳ごろには **215人**に、
そして 85 歳ごろには **160人**に
減ってしまいました。

この間、
支援や介護が必要な人の割合は
約 1 割 から **約 6 割** へと増えています。

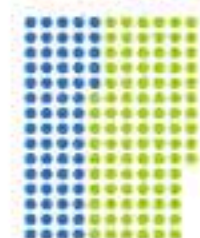


215

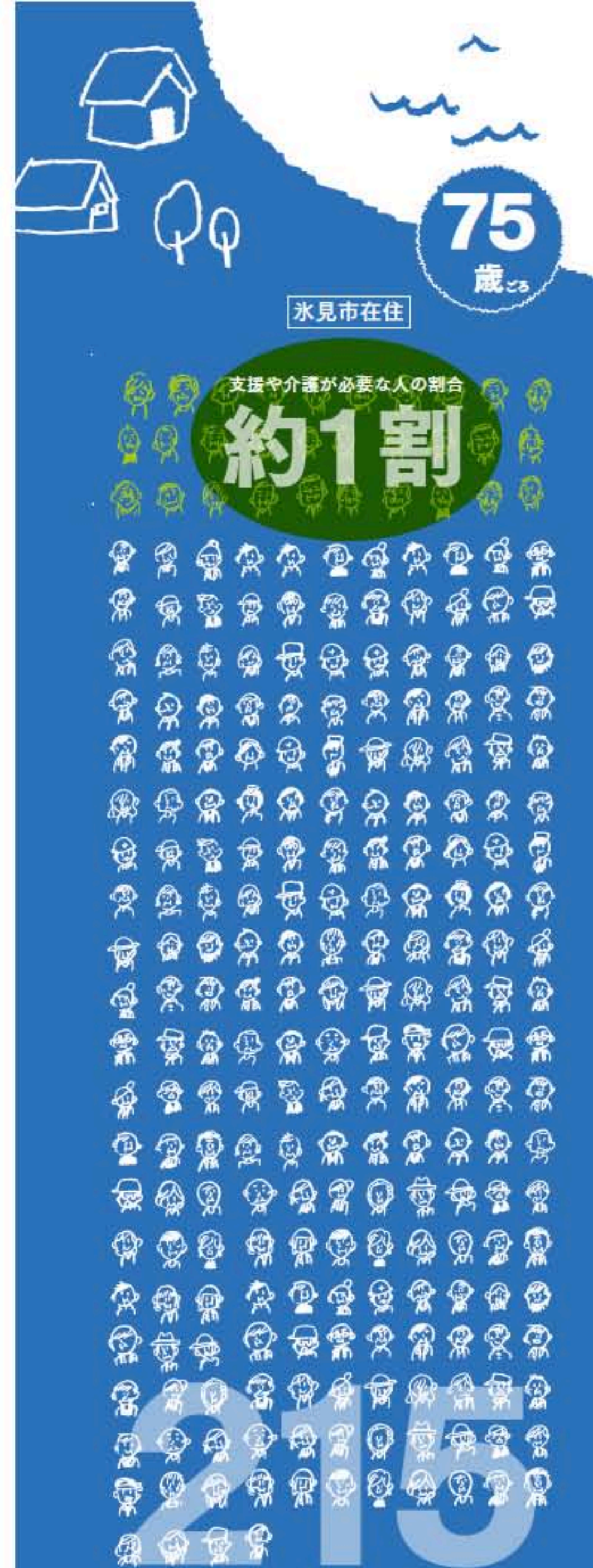


約 1 割が支援や介護が必要

160



約 6 割が支援や介護が必要



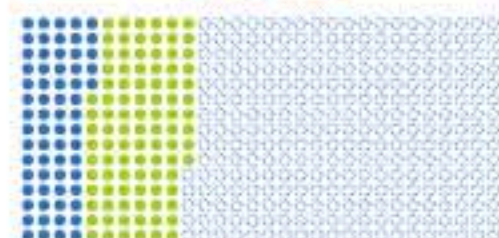
85 歳ごろ

祭りの夜、同じ中学を卒業した二人は、
数十年ぶりに再会しました。

獅子舞を見ながら、
「元気そうでよかった。来年も必ず会おうな」
と約束し、力いっぱい握手をしました。
そっと流れた涙には、
卒業した二人の笑顔が映っていました。



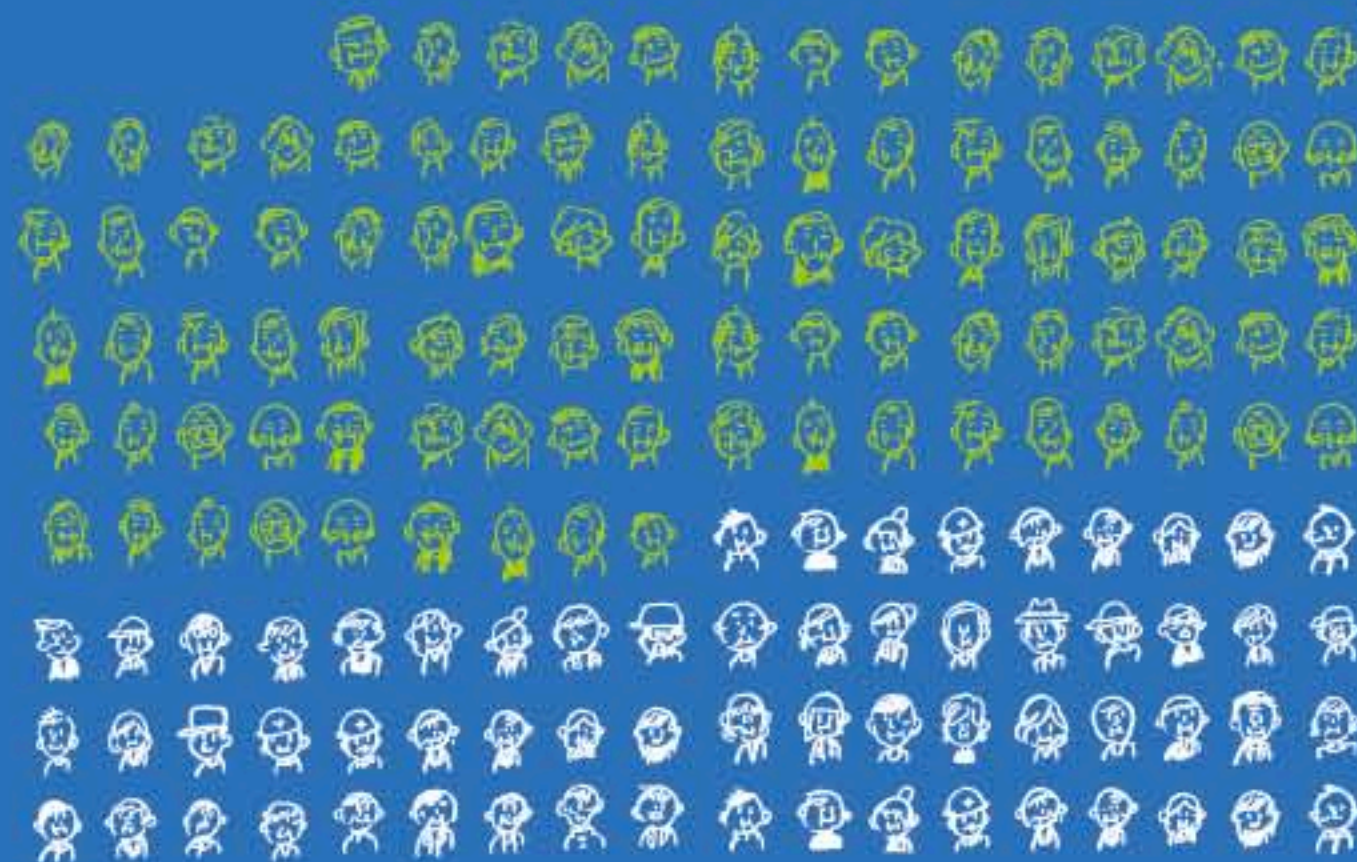
160



約6割が支援や介護が必要

氷見市在住

160



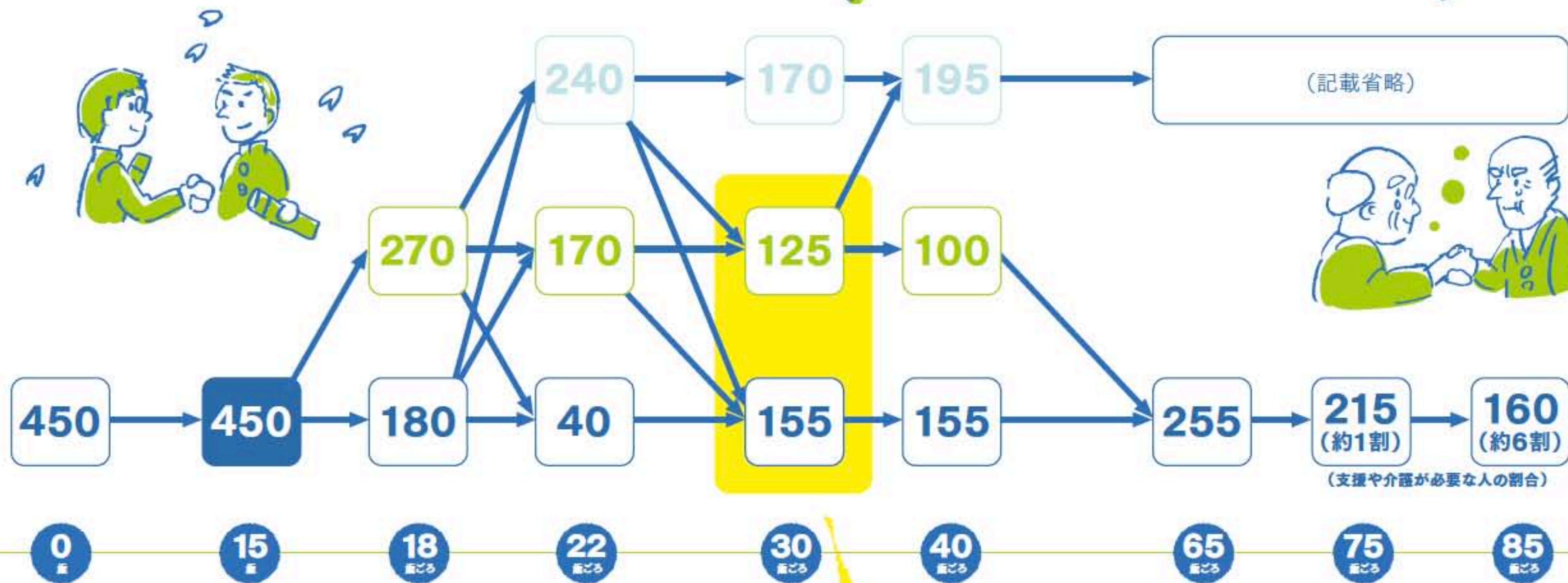
450人の卒業生が たどった物語 (全体像)

住居 通勤・通学

他の地域 他の地域

氷見市 他の地域

氷見市 氷見市



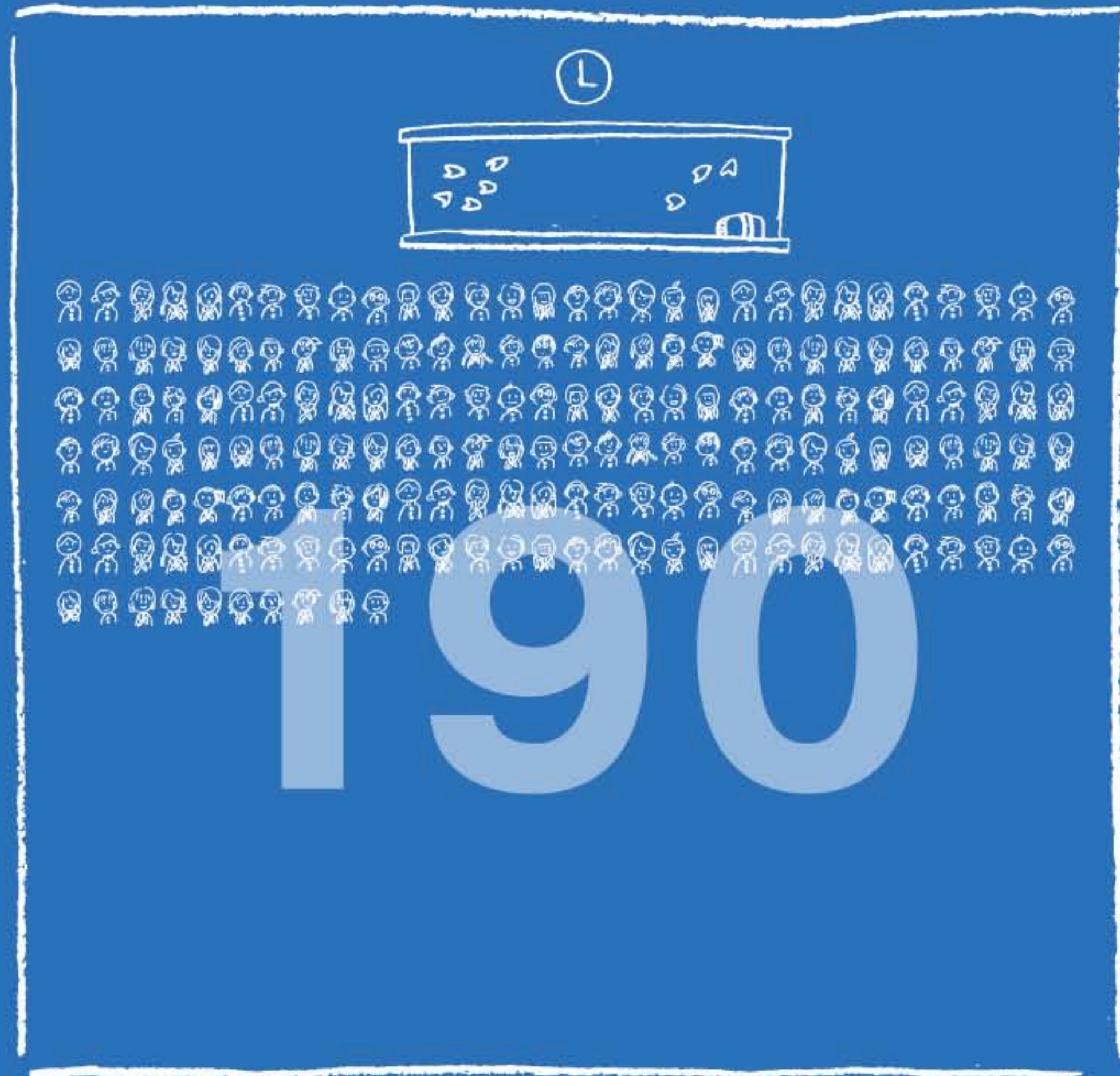
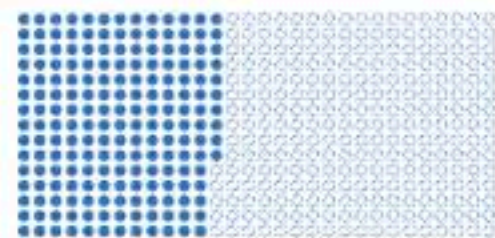
ところで、このころ氷見に住んでいる
280人も、結婚して、子どもが生まれました。

氷見市の合計特殊出生率は1.37。
生まれた子どもの数は**190人**。

450人がいた中学校の教室は、
半分以上が空席になります。

次はこの190人の子どもたちの未来を、
想像してみましょう。

190



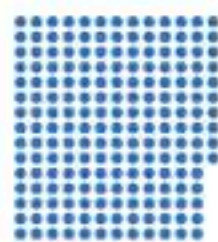
子どもたちが大人になった時、
このまちにはどれくらいの人が
暮らすのでしょうか。

みんな笑顔で、元気に、
幸せに暮らしているのでしょうか。

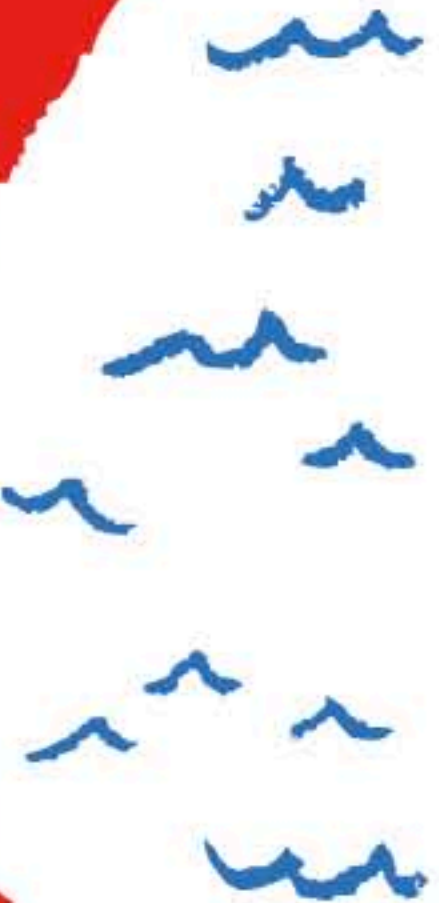
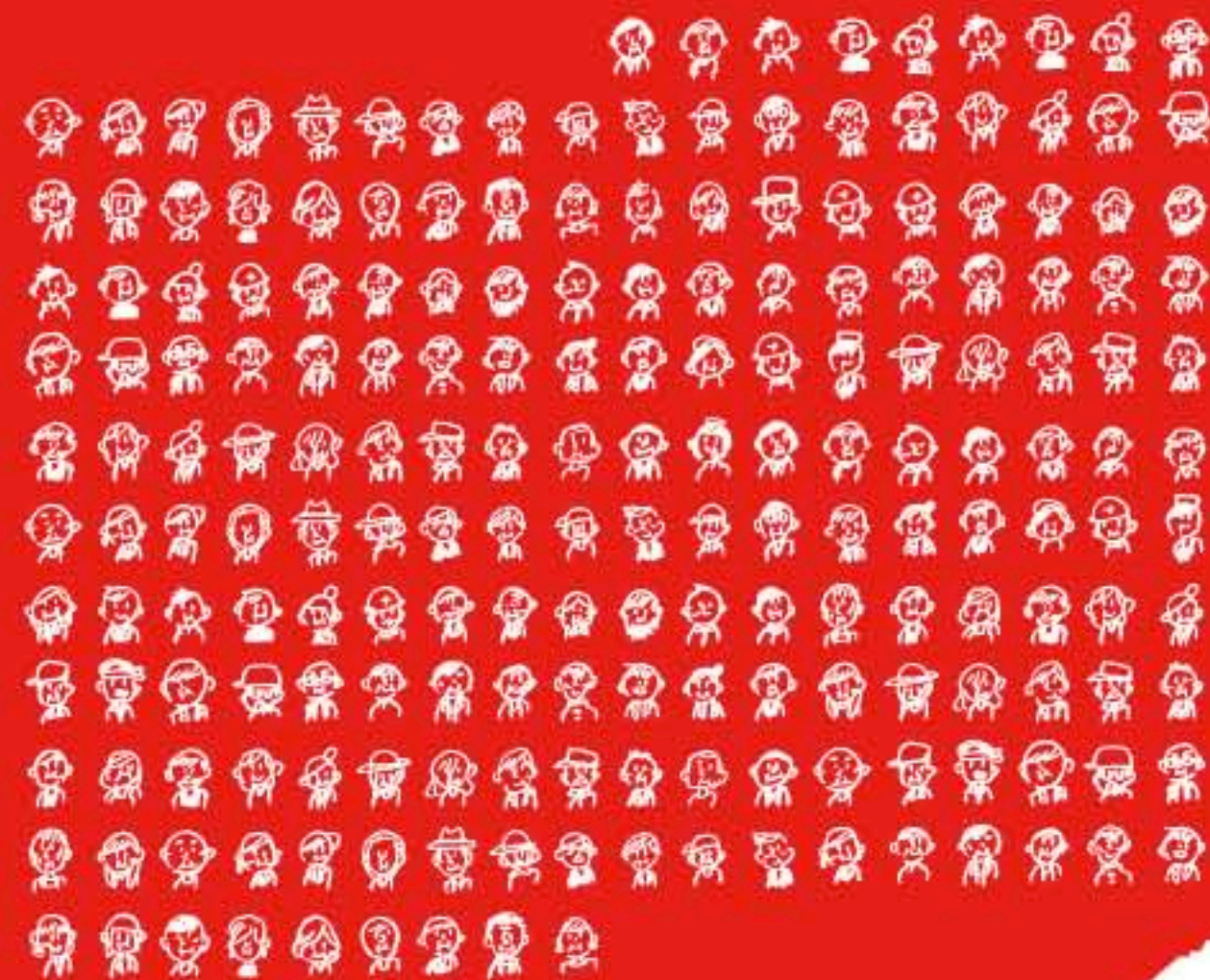
そのために、今、私たちがやるべきことは、
何なのでしょうか。



190



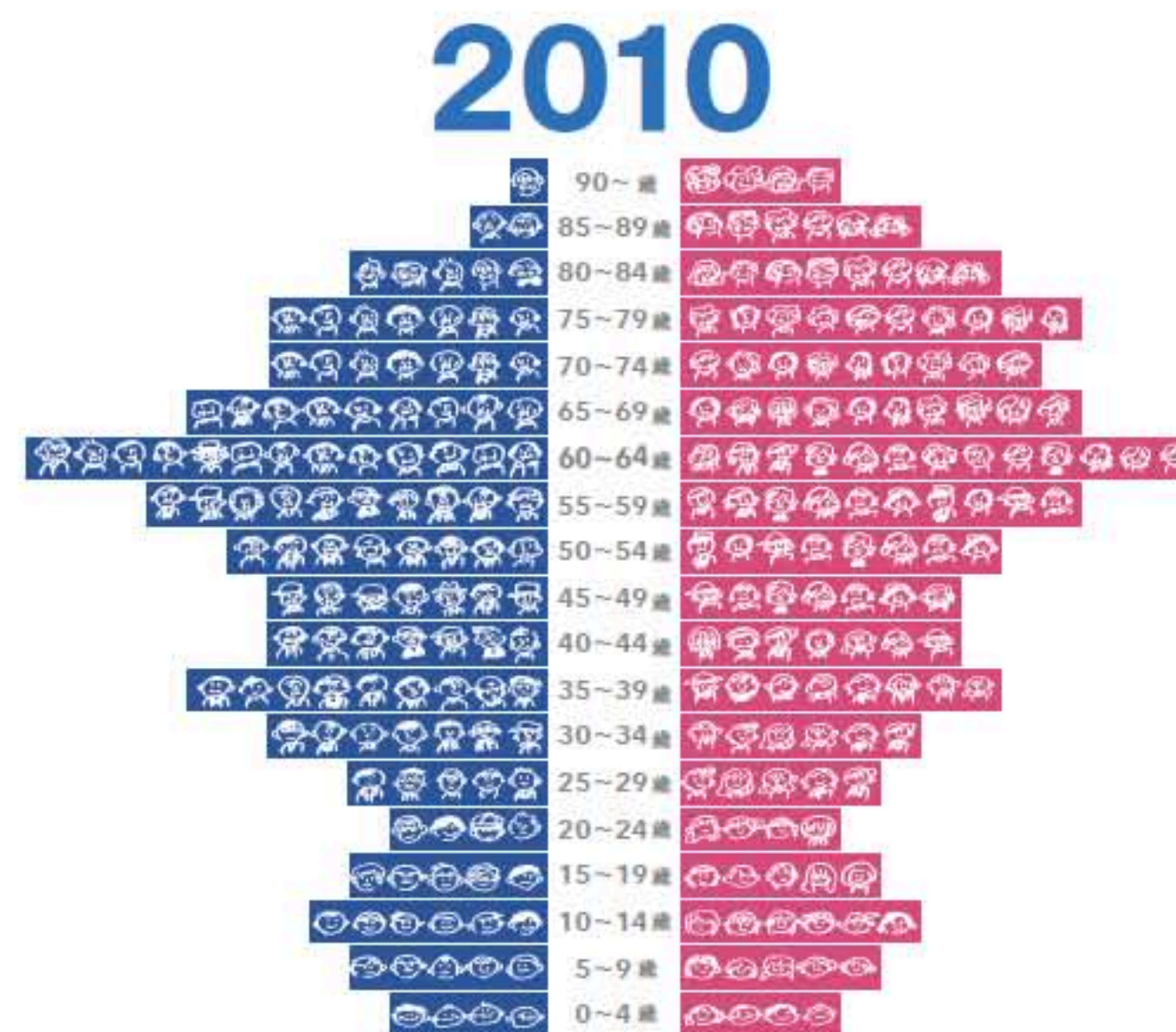
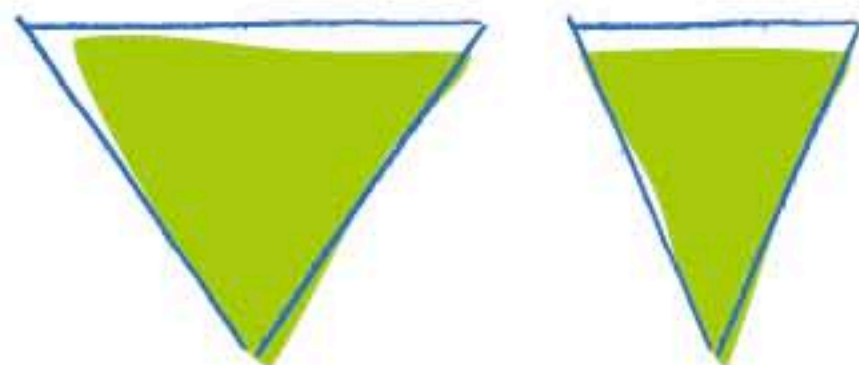
190 ▶ ?



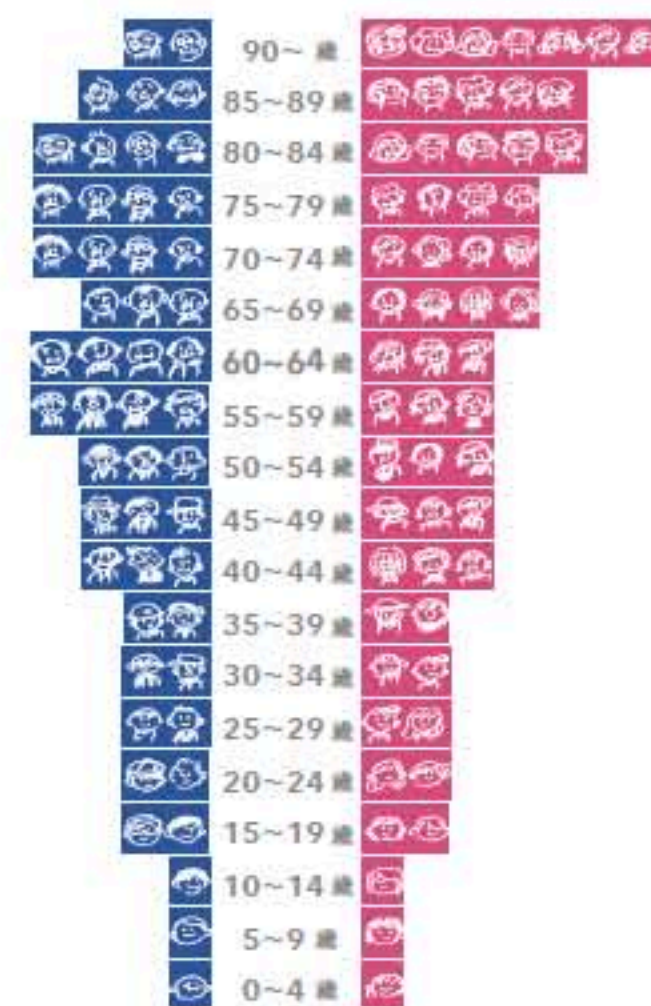
こどもが減っていくと、
人口ピラミッドは
逆三角形の形になります。

若者が減るのに対し、
高齢者が増えるためです。

このままでは、いつか氷見から
子どもがいなくなってしまうかもしれません。



2060

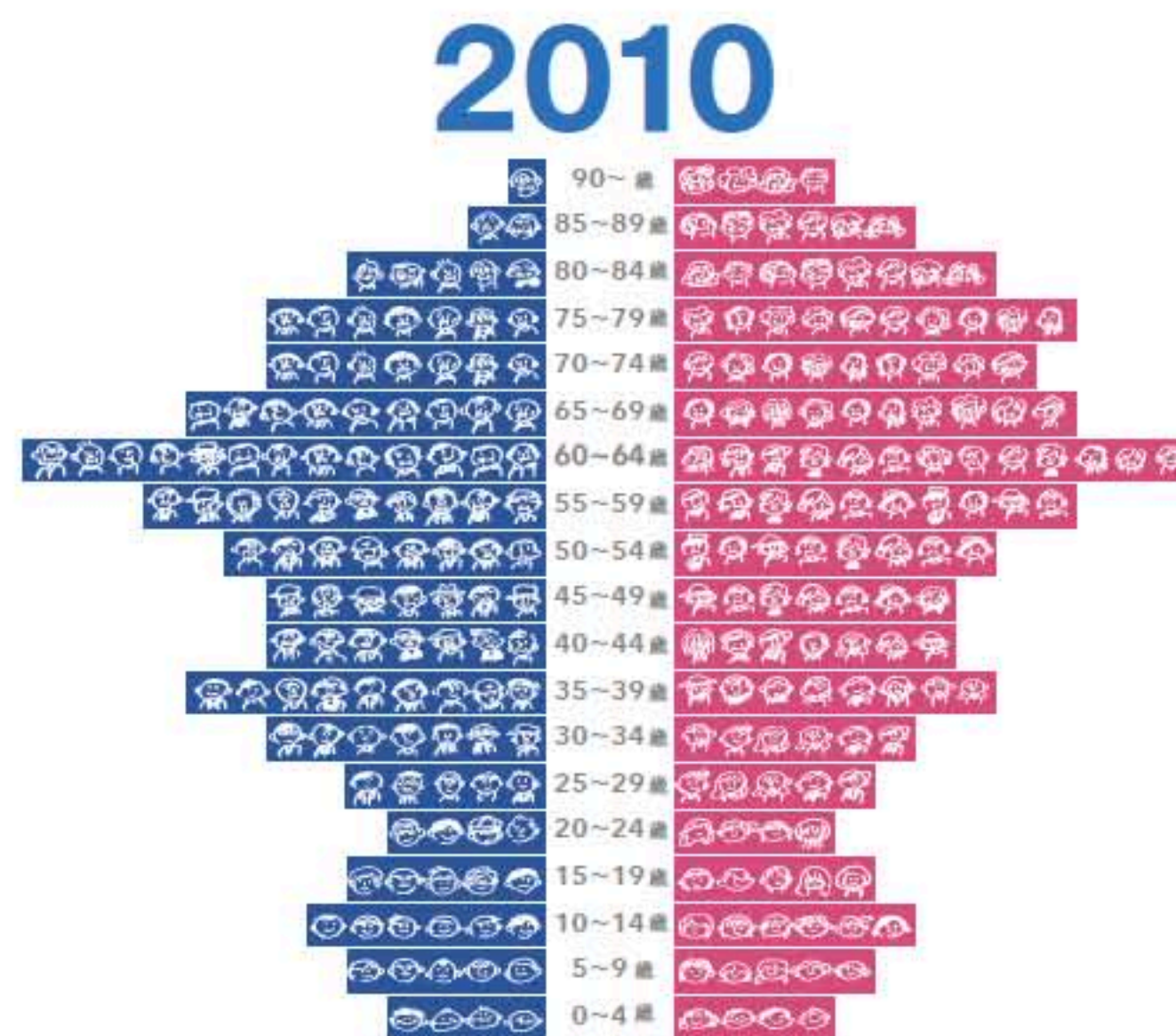


👤 = 約200人 青 = 男性 赤 = 女性

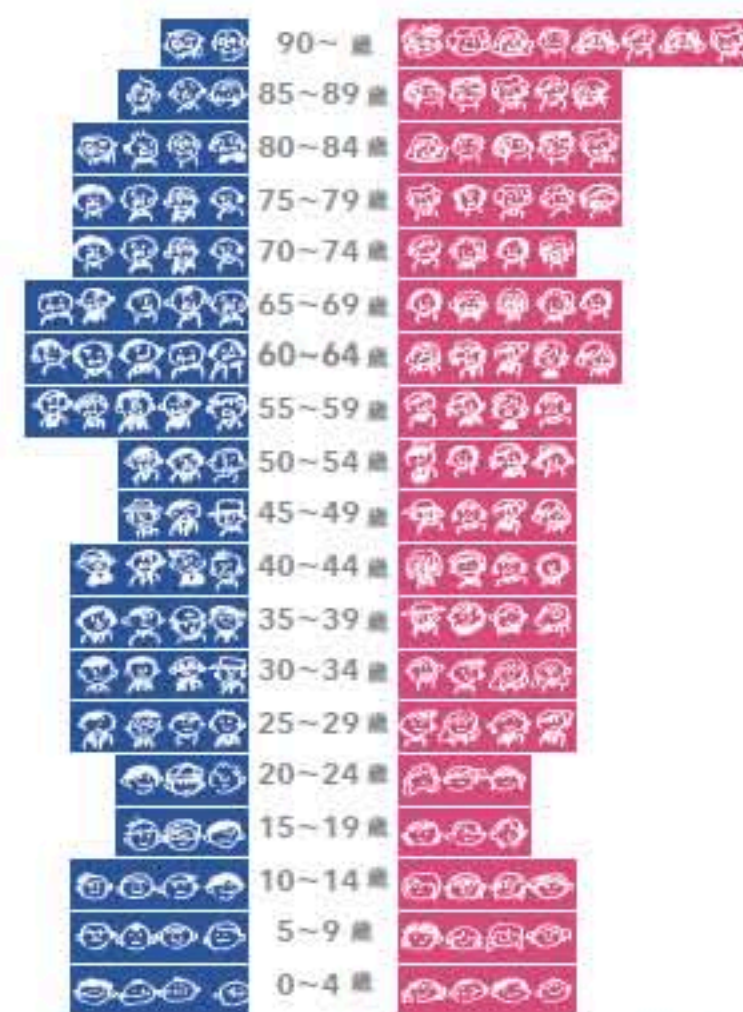
そんな未来にならないために、
人口ピラミッドを逆三角形から
寸胴型 にしていく必要があります。

そのためには、
一度市外へ出て行ったけれども
いつか戻ってくるUターン者や、
若い世代の移住者を増やす必要があります。

また、
氷見にずっと住み続ける定住者を増やし、
健康長寿で暮らす元気なお年寄りを増やすといった、
市民の希望をかなえることも
大切な視点となります。



2060



● = 約200人 青 = 男性 赤 = 女性

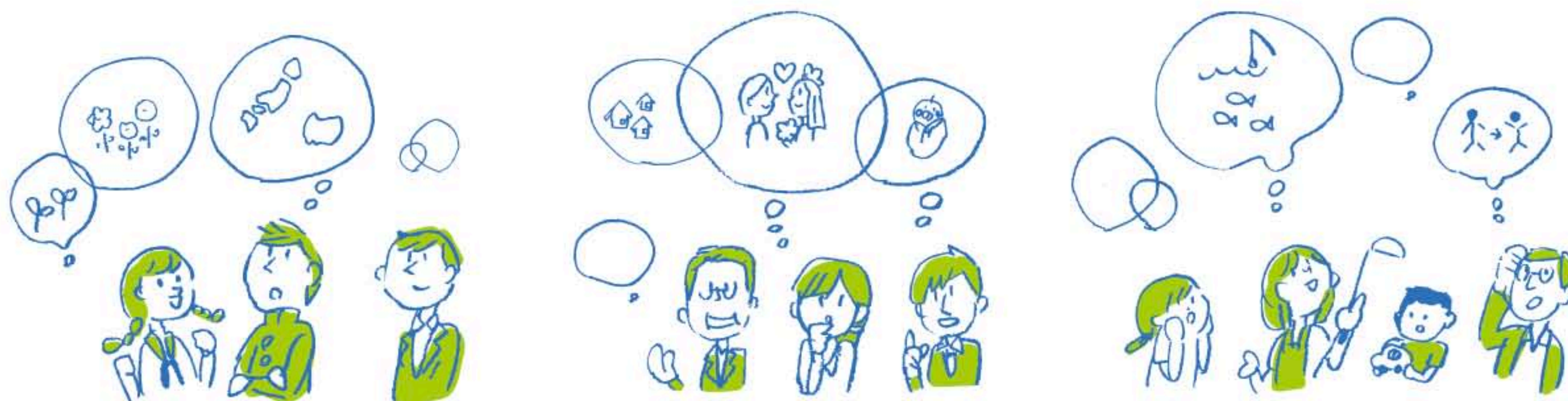
人の数は減っても、子どもからお年寄りまで、様々な世代がバランスよく、元気に混ざり合い、人々の幸せの総量は今よりもむしろ増えるような未来。

そんなまちを目指します。

そのために、私たち一人ひとりができることはなんなのか。

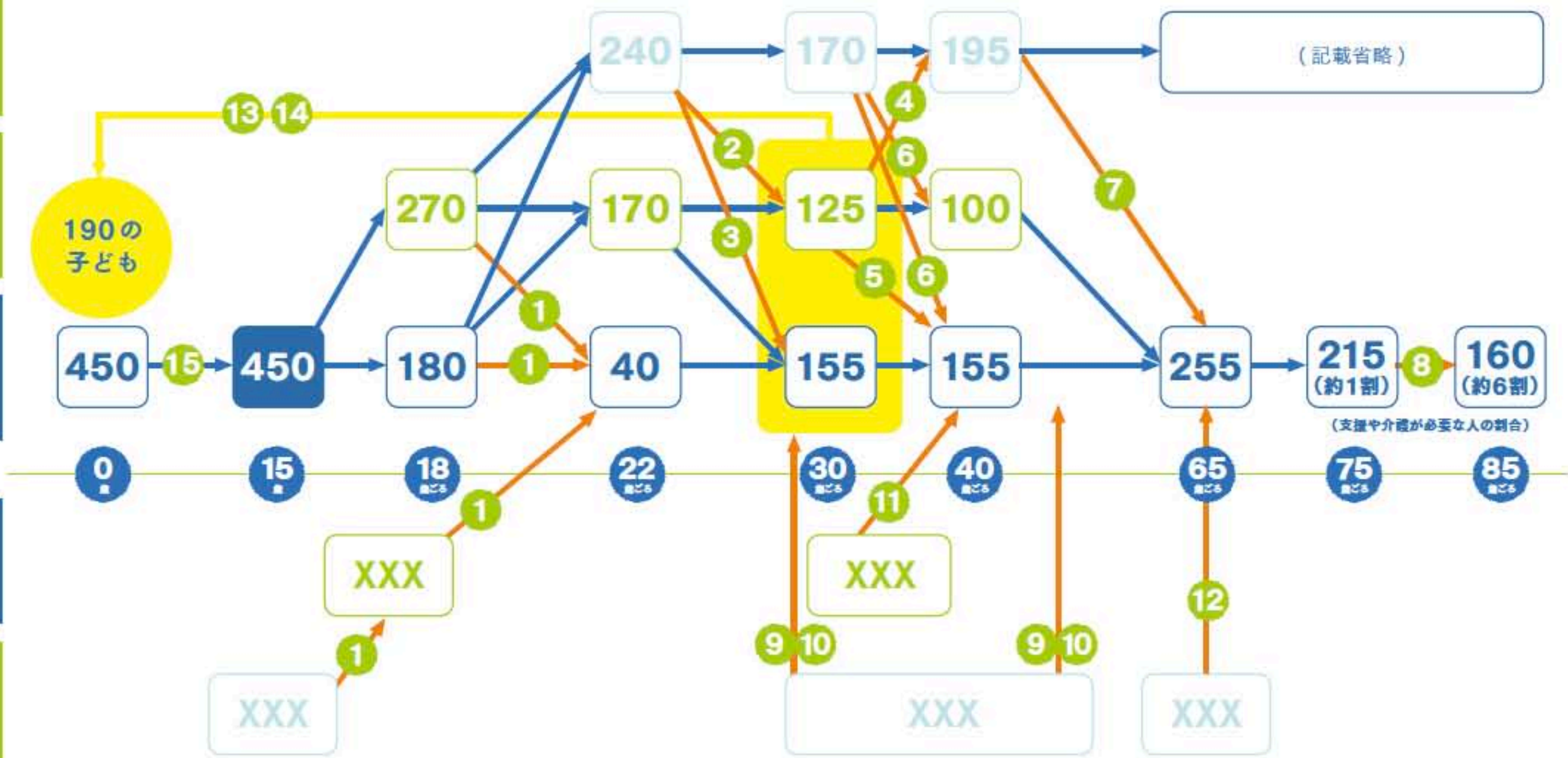
ご家族やご友人、職場や学校など、様々な場面でこの問題についてぜひ話し合ってみませんか。

それが私たちができる、地方創生の第一歩ではないでしょうか。



15 の観点

	住居	通勤・通学
Uターン	他の地域	他の地域
	氷見市	他の地域
	氷見市	氷見市
I・Jターン	他の地域	氷見市
	他の地域	他の地域



氷見市は、市民の希望をかなえ、持続可能な社会を実現するため、「ライフステージごとの人口移動」を確認し、「15の観点」を設定しました。

これをもとに策定したのが、**氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略**です。

- 1 高卒新卒者が就きたい仕事を増やす
- 2 20代のUターンを増やす
- 3 20代が就きたい仕事を増やす
- 4 他の地域に通勤する人の転居を減らす
- 5 子育てと両立できる仕事を増やす
- 6 子育ての魅力で氷見市に転居してくる人を増やす
- 7 定年後のUターンを増やす
- 8 長生きをする&健康寿命を伸ばす
- 9 20~40代のIJターンを増やす
- 10 20~40代のIJターン者が就きたい仕事を増やす
- 11 他の地域から氷見市内に通勤する人の転居を増やす
- 12 定年後のIJターンを増やす
- 13 婚姻数を増やす
- 14 出生数を増やす
- 15 未就学児の親子で転居してくる人を増やす

4つの 基本目標

「氷見市15の観点」を実現するために、
氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略
4つの基本目標を設定しました。

基本目標Ⅰ 安定した雇用を創出する

氷見市の特色を活かし、時代の流れに
対応しながら魅力的な雇用を増やす

- 観点
- ① 氷見市に高卒新卒者が就きたい仕事を増やす
 - ③ 氷見市に20代の方が就きたい仕事を増やす
 - ⑤ (他の地域に通勤する方の転居を減らすために)
氷見市に子育てと両立する仕事を増やす
 - ⑩ 20~40代のIJターン者が就きたい仕事を増やす

基本目標Ⅱ 新しいひとの流れをつくる

「回遊する人材を定置網のように
受け止めるまち氷見」を実現する

- 観点
- ② 20代のUターンを増やす
 - ④ 氷見市から他の地域に通勤する方の転居を減らす
 - ⑦ 定年後のUターンを増やす
 - ⑨ 20~40代のIJターンを増やす
 - ⑪ 他の地域から氷見市内に通勤する方の転居を増やす
 - ⑫ 定年後のIJターンを増やす
 - ⑮ 未就学児の親子で氷見市に引っ越し方を増やす

総合戦略の詳細については
こちらのページをご覧ください。

<http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000005700/hpg000005668.htm>



基本目標Ⅲ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

氷見での結婚・出産・子育てを楽しみ、
子どもの笑顔で満ちあふれた家庭を増やす

- 加観
- ⑥ 子育ての魅力で氷見市に引っ越し方を増やす
 - ⑬ 婚姻数を増やす
 - ⑭ 出生数を増やす

基本目標Ⅳ 時代に合った地域をつくり、 安心な暮らしを守るとともに、 地域と地域を連携する

暮らし続けられるまちを実現し、
地域資源を効果的に活用した魅力的な
地域社会を実現する

- 観点
- ⑧ 長生きをする & 健康寿命を伸ばす
 - ☆ 氷見市の地方創生を実現する基盤を構築する

氷見市では、2015年夏、氷見市の“未来の課題”について、市内各所で、生徒・学生、老若男女、様々な実務家・専門家、地域の経験豊かな皆さん…が集い、様々な知見やデータも持ち寄り、話し合いました。

このまま何もしないとどんな未来が待っているか、なぜこのようなことが起きているか、そのために今やるべきことは何か…。時には、高校生280名が車座で氷見の未来を話し合うことや、市の職員や実務家・専門家の皆さんが夜を徹して話し合うこともしばしば行われました。

そして、4ヶ月の間に、

のべ約1,500名の対話と約2,000件のつぶやきが集まりました。

その話し合いをもとにつくられた「総合戦略」は、氷見市の未来へ向けた1つの道しるべとなるものです。とはいえ、これは答えではありません。

この「総合戦略」づくりを通じて分かったこと。それは、これからずっと、未来について想像をし、話し合い、ともに影響し合い、活動と共感の連鎖が続くことが大切ということです。

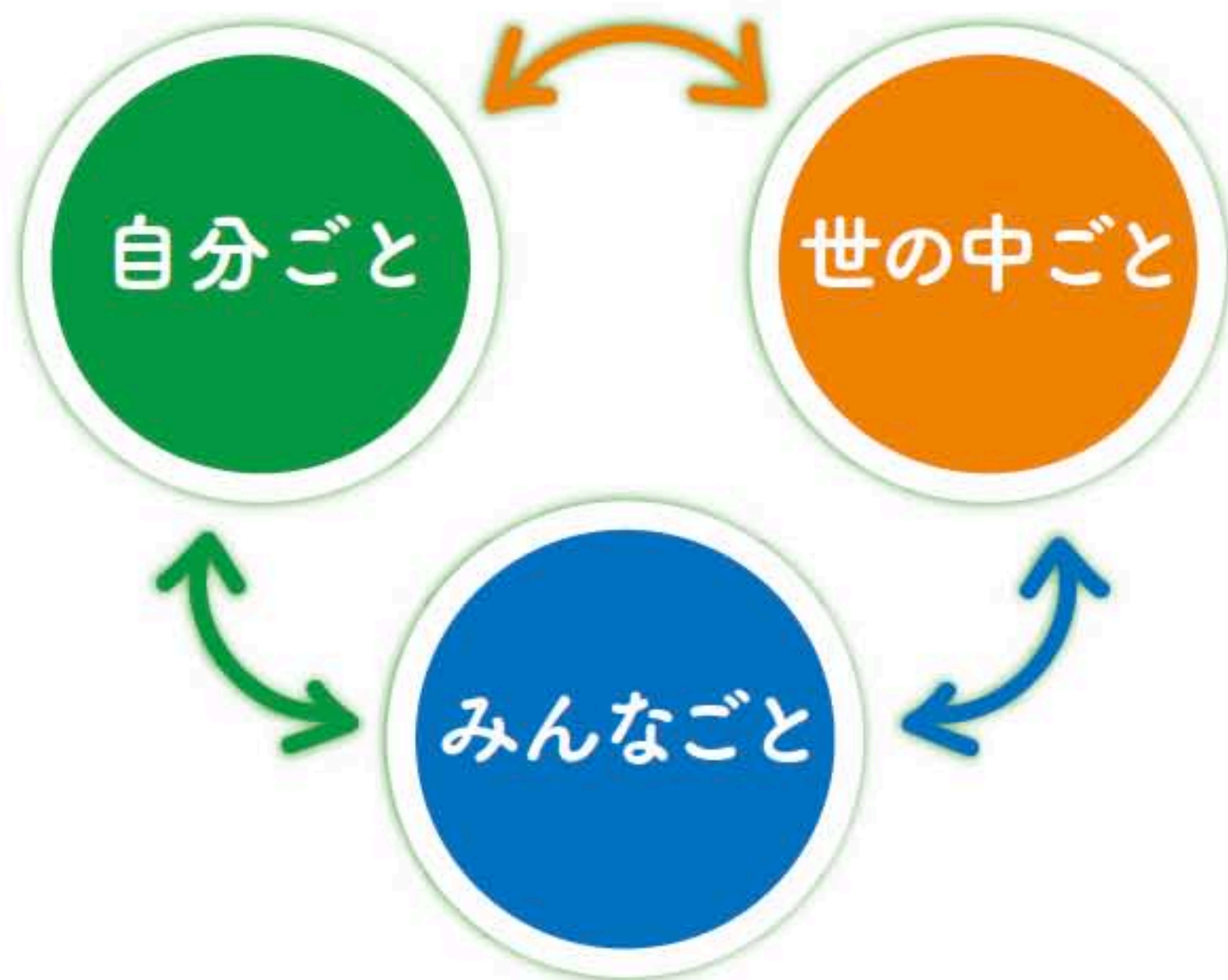
そこで、氷見市では、「総合戦略」を共有しながら、氷見市の未来に真剣に向き合い、ともに考え、自ら行動し、一人ひとりの夢を形にしていきます。

そういった

『おらっちゃ創生 (MY 地方創生)』が、具体的に起きてくること、それが氷見市のまち・ひと・しごと創生の第一歩と考えます。

私たち一人ひとりができること。
はじめよう『おらっちゃん創生』！

おらっちゃん
創生



八代地区社会福祉協議会
森杉 國作さん



おらっちゃん創生の詳細については
『おらっちゃん創生』タブロイド紙を
ご覧ください。

<http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000005800/hpg000005722.htm>



『おらっちゃん創生 (MY地方創生)』とは、
氷見市の地方創生“実現”に向けて、
市民一人ひとり、各地域、各種団体が、
それぞれの立場で
今までの活動をとらえ直し、
未来に貢献できる具体的な方法を
問いかけ、考え、行動していく
“みんなの社会運動”です。

地域の誇りと、
仲間への恩返しのために

▶詳しくは『おらっちゃん創生』タブロイド紙をご覧ください。



社会とは、私たち一人ひとりが繋がり、
お互いに影響しあって成り立っているものです。

そして、よりよい社会は
「人々の繋がり」が活発になることから実現していきます。

たとえ人口は少なくなっていくとしても、一人ひとりの『おらっちゃ創生』が数多く実践されることで、これまで以上に、「人々の繋がり」は豊かで活気あるものとなり、多種多様な「人々のふれあいや助け合い」が増え、氷見市を挙げて「豊かな暮らし」「幸せな人生」が実現される。

そして、そういった氷見に共感した、高い志と能力を持つ人々が集まり、さらなる活動や雇用も生まれる。

そんな未来の氷見市を、ともにつくっていきます。

2015年10月27日

氷見市まち・ひと・しごと創生宣言 2015(氷見宣言 2015)より

